

韓国科学技術院（Korea Advanced Institute of Science and Technology, KAIST）出張報告

古賀雄一、金谷茂則

出張期間 平成 22 年 3 月 4 日～6 日

用務先 大韓民国大田広域市儒城区 韓国科学技術院（KAIST）

訪問者 古賀雄一、金谷茂則

韓国科学技術院（Korea Advanced Institute of Science and Technology, KAIST）は、韓国の科学技術研究、教育の中心的役割を担う国立大学である。今回、大阪大学大学院生命先端工学専攻と KAIST 生命科学部との間で、学生と教員の研究・文化交流を行うプログラムの実施に向けたネットワーク構築のため、KAIST を訪問した。

本プログラムは、研究の国際化と、語学力の向上、人的ネットワークの拡大を狙い、両校から選抜された学生と教員が相互訪問し、研究発表や文化的活動を行うものである。効果的な交流を実現するために、予め教員間の相互理解を深め、研究分野のすり合わせや、実施期間、内容の調整が必要である。そこで KAIST 側担当教員として紹介された、生命科学部 Hak-Sung Kim 教授を、訪問し、両校の研究内容、教育、学生事情について意見交換と金谷教授によるセミナーを行った。

KAIST は、高水準の研究設備が整えられた研究棟を完備し、一流誌への研究成果発表を行っている一線級の研究者らを集めた高度な研究機関であった。さらに、授業が英語で行われるなど先進的な教育が実践されており、また、学生に対する経済的支援があるなど、優秀な学生が良好な環境でレベルの高い研究活動を行っていることがうかがえた。実際、セミナーに参加した学生から、活発な質疑が出るなど、アクティビティの高さが感じられた。本プログラムの実施によって、大阪大学の学生に少なからず良い刺激を与えてくれると思われる。

同校の生命科学部は基礎生命科学、応用生命科学分野でおよそ 30 研究室を擁しておりその研究分野は多岐に渡る。今回、大阪大学側の研究室紹介を行い、研究分野のマッチした研究室から意欲的な学生を 15 名程度選抜し、派遣してもらうことになった。大阪大学側はホストとして 15 名程度の学生を選び、本交流プログラムを実施することを確認した。実施時期については、両校のカリキュラムを鑑み、7 月下旬に実施することになった。

